

3人4脚



R2. 11/6(金) 第8号
二宮西中学校学校だより
発行者:和田 智司

進路決定に向けて…家庭と学校の「2人3脚」で…

～入試に関しては例年とは違う点が多々出てくることが予想されます～

10月26日(水)に2・3年生の保護者を対象にした進路説明会が行われました。2年生は22名、3年生は47名の保護者の方がご出席いただきました。お忙しい中ありがとうございました。私からは「進路とは・就職について・公立高校入学者選抜等について」話をしました。その後、進路指導主任の一石より「私立高校入学試験について」、学年主任の真田より「奨学金制度について・今後の予定について」話をしました。限られた時間の中でしたので十分な説明ができなかったところもあったかと思えます。不明な点がありましたら遠慮なくお問い合わせください。

なお、本年度の入試に関しては、新型コロナウイルス感染症対策のため、例年とは違う点が多々出てくることが予想されます。早め早めの情報共有に心がけてまいりますので、文書等はこまめに確認いただきますようお願い申し上げます。家庭と学校の「2人3脚」でお子さんの進路を支えていきましょう。

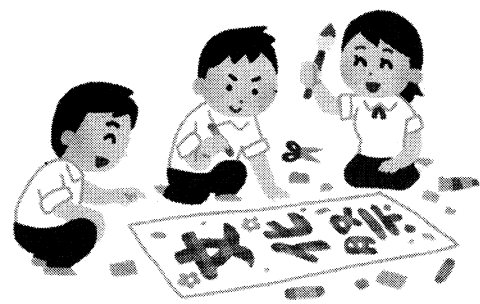
『進路』とは

- 「自分」の進む路
今後どのように生きていくのか
- 進路の二つの面
 - ◆短い視点での進む路
⇒ 中学卒業後の進路
 - ◆長い視点での進む路
⇒ 将来何の職業に就くのかそして
職業を通しての「社会貢献」「自己実現」

◎進路決定に向けて

- …成功のための秘訣
 - 1. 最終決定は「子ども」にさせる。
 - 2. 「子ども」に「自己管理能力」と「忍耐力」を付けさせる。
 - 3. 保護者は良き「アドバイザー」として「子ども」を支える。
- ※家庭と学校の「2人3脚」で「子ども」を支えましょう。 ●

決定!…文化祭を3月5日(金)に開催します!

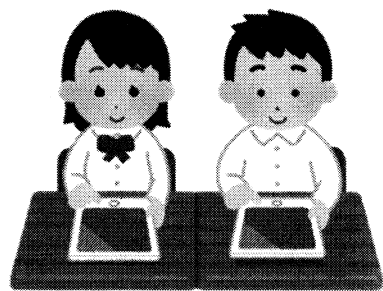


今までは秋麗祭と言っていましたが、開催が秋でなくなるため名称自体から検討しなくてはなりません。文化祭を3月5日(金)に実施することが決まりました。保護者や地域の方々の来校についても含め、具体的な内容等については検討中です。なお、今年度に関しては体育祭と同様に平日日程での開催とさせていただきます。新型コロナウイルス感染症の感染リスクを配慮した上での実施となります。ご理解・協力のほどよろしくお願いいたします。

AIが活躍する時代はもうすぐそこまで来ています。

“GIGAスクール構想”という言葉をお聞きになられたことはおありでしょうか。最近、ニュース等で話題になっていますので、今日は、このことについて簡単に触れてみたいと思います。GIGAスクール構想とは、一言で言うと「児童生徒向けの1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化された創造性を育む教育を、全国の学校現場で持続的に実現させる構想」です。

GIGAとはGlobal and Innovation Gateway for Allの略です。…AIと共存する時代はも



うすぐそこまで来ています。予測困難な未来社会、変化の激しい時代を生き抜くには従来の一斉教育だけではなく、多様な子どもたちを誰一人取り残すことのない、個別最適化された創造性を育む教育の実現が重要です。ですから、ICT教育で次世代の人材を育てる必要があります。これらを持続的に実現させる構想がGIGAスクール構想といえます。

ハード面から説明すると、具体的に何が変わるのか。今年度中に義務教育段階にある小学1年生から中学3年生の児童生徒向け学習用端末を1人1台導入し、端末を同時接続しても不具合の起きない、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備するということです。二宮町でも整備の方向で動き始めています。

課題は、これらをどう使うかです。学校での取り組みが課題になります。今から準備を進めなくてはなりません。もう待ったなしの状態です。本校でも、その日に備えて今から戦略を練っていきたいと考えています。

「言葉は力を持つ」

※美しい言葉で…子どもを
しっかりと育てましょう。

～30年以上前の話より…自分の若いころを振り返り自責の念に駆られました。～

この言葉は、以前勤務していた中学校の国語科の先生が離任式の時に、全校生徒に対して話していた言葉です。そして、今でも私の心に深く残っている言葉の一つです。離任式での先生がどのようなことを話されたのか、お伝えしたいと思います。

私は、国語科の教師です。この学校を去ることになった今、皆さんに『言葉は力を持つ』というラストメッセージを贈りたいと思います。私たち人間は、言葉によって互いの意思疎通を行っています。その言葉が、プラスの言葉なのかあるいはマイナスの言葉なのか。つまり、相手の心を温かくする言葉なのか、相手の心を傷つける言葉なのか、よく考えて使うことが重要です。…言葉の素晴らしさと恐ろしさの両面をしっかりと学び、周りの人に力を与えられる言葉遣いができる人になれるよう、さらに自分を磨いていってください。



先日、あることをきっかけに、自分の若いころを振り返り自責の念に駆られました。…30年以上前の話になります。…理科のテスト返しで「メンデル」という正答に対して、「メンベル・ヘンデル等」の誤答を書いてきた生徒がいました。…そのような誤答を書いた生徒の氏名は言わなかったものの、私自身が、その誤答を面白おかしくいったことがありました。…教室には、笑いが起こりました。その時の私は、誤答をネタにしてその子をバカにしたわけです。つまり、「誤答を書いた生徒の心」に寄り添うことなく、心を傷つけてしまったのです。

私たち人間は、人に傷つけられたことは、決して忘れられないつらい思いとなる傾向があります。しかしその一方、相手を傷つけたことは、自覚できないことが多く、記憶にも残らないのではないのでしょうか。

高橋系吾さん作の「その一言」という詩があります。それは…

その一言で 励まされ その一言で 夢を持ち
その一言で 腹が立ち その一言で がっかりし
その一言で 泣かされる ほんのわずかな一言が
不思議な大きな力を持つ ほんのちょっとの一言で

…私自身も、『言葉は力を持つ』そして「その一言」をしっかりと肝に銘じ、今後とも言葉遣いに細心の注意を払っていきたいと思います。

